

## 小学部第3学年 国語・算数科授業計画案

### 1 単元名「さるかにごっこをしよう」

#### 2 単元設定の理由

本グループは5名で構成されている。机上での学習を継続するのが難しい児童、大きな音や声が苦手な不安定になるなど情緒面に課題のある児童が多い。しかし、興味や関心のある課題であれば、短時間ではあるが落ち着いて学習に取り組むことができ、特に絵本の読み聞かせでは、ほとんどの児童が楽しんで学習に参加することができるようになってきている。数に関しては10までの数唱ができるようになってきている児童が多い。言語面に関しては、一方的な会話やオウム返しが多く、自分の気持ちを言葉にして伝えることが難しい児童も多い。また、書くのは難しいが、50音を全部読むことができる児童や、拾い読みができる児童がいる。

今までの国語・算数の学習では、絵本を用いて数を数えたり、その登場人物にあいさつやお礼を言ったりして、ことば遊びを楽しんできた。そこで本単元では「さるかにがっせん」の物語を児童の実態に合わせた内容に工夫し、具体物を数えたり、人との言葉のやりとりをしたりする楽しさを感じさせたいと考え、この単元を設定した。「さるかにがっせん」の登場人物は名前が「さる」「かに」「くり」など、短いものが多く、覚えやすいため、本グループの児童も親しみやすいと思われる。また、登場人物になりきるごっこ遊びを行うことで、好きな絵本の世界に自分も入ることができ、楽しみながら活動に取り組むことができるのではないかと考える。

活動を通して、楽しみながら数を数えることで、より数に関する興味・関心を高められるようにしたい。また、人とのかかわりを楽しみながら、場に応じた言葉を増やし、日常生活にも活かしていけるようになることを期待したい。

#### 3 目標

- 簡単な言葉のやりとりができる。
- 5までの数を数えることができる。
- さるかにごっこに関心をもち、楽しみながら学習に取り組むことができる。

#### 4 授業計画（13時間扱い）

- 第1次 登場人物に親しもう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- 第2次 さるかにごっこの準備をしよう・・・・・・・・・・・・ 3時間
- 第3次 さるかにごっこをしよう・・・・・・・・・・・・・・ 7時間（本時は3時間目）

#### 5 本時の学習内容

##### (1) 目標

##### ア 全体目標

- ・さるかにごっこを楽しみながら、場に応じた言葉を言うことができる。
- ・具体物をつかって3までの数が分かる。(Cは5まで)

イ 児童生徒の実態及び個別の目標と支援の手立て

氏名	実態	個別目標	支援の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音は不明瞭だが、友だちの真似をして、自分から教師を呼ぶことができる。</li> <li>1対1の対応は難しいが、数字を読んだり数えたりすることに興味がある。</li> <li>興味が移りやすく、席から離れてしまうことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を意識して話をすることができる。</li> <li>具体物を見て3までの数を数えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意を向けられるよう、指差しやサインで合図を出す。</li> <li>ひとつずつ指差しをしながら、手元を見て数えるように促す。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを言葉で表現することが難しく、泣いたり大きな声を出したりして騒いでしまうことが多い。</li> <li>30までの数を読むことができる。</li> <li>本や音楽が好きで、そこから離れることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柿をとるために、サルとの簡単な言葉のやりとりができる。</li> <li>柿を3つとってとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言いたい言葉を練習してから柿をとりに行くようにする。</li> <li>声に出して数えながら柿をとるように促す。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>一方的ではあるが、大人との会話を楽しむことができる。</li> <li>指差しで10までの具体物を数えることができる。</li> <li>気持ちが不安定になると、泣いて教師と一緒にトイレに行きたがる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問の受け答えができる。</li> <li>柿を5つとってとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で答えることができるように、短くわかりやすい質問にする。</li> <li>声に出して数えながら柿をとるように促す。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>オウム返しが多いが、嫌な時などは「嫌い」と教師に伝えることができる。</li> <li>指差しで10までの具体物を数えることができる。</li> <li>突然思い出して泣いたり、大きな音や声を嫌がったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>柿をとるために、サルとの簡単な言葉のやりとりができる。</li> <li>柿を3つとってとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言いたい言葉を練習してから柿をとりに行くようにする。</li> <li>声に出して数えながら柿をとるように促す。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な単語を使って自分の要求を教師に伝えることができる。</li> <li>興味や関心があれば、3までの数唱ができる。</li> <li>興味が移りやすく、集団参加が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を楽しみながら集団参加できる。</li> <li>言葉や数に興味をもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団から離れてしまった場合は、柿の木を移動するなど、自然に集団に参加できるように支援する。</li> <li>柿を食べるまねをするなど、柿で楽しい雰囲気を作りながら、一緒に数を数えるようにする。</li> </ul>

(2) 準備物・資料

- ・授業カード、学習予定カード、配役カード、背景（柿の木）、柿のカード、柿、かご、シール、シール台紙、数確認補助箱、ホワイトボード

(3) 展開

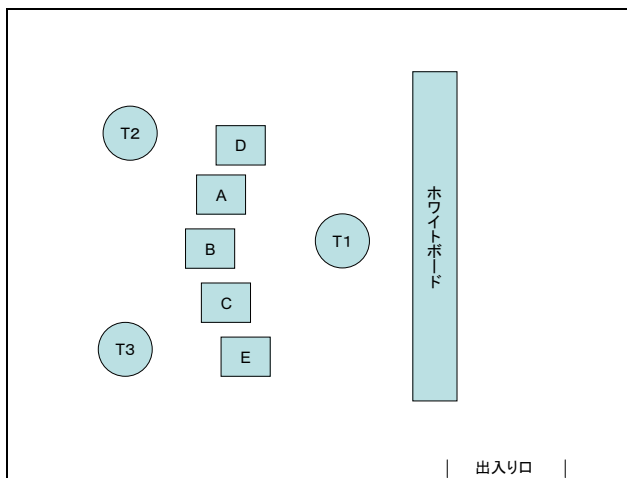
時間	学習内容及び活動	支援の手立てと評価
3分	1 あいさつをする。 (学習形態①)	・全体への手立て ○個別の手立て <評>評価 ・何の授業が始まるのかを意識できるように、授業カードを提示する。
2分	・全員ではじまりのあいさつをする。 2 本時の学習内容を知る。 (学習形態①)	・姿勢を意識することができるように、言葉かけをする。 ○Cがビニールを手を持っているときは、T2がビニールをしまうように言葉かけをする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             1 あいさつ              2 へんじ              3 さるかにごっこ              4 あいさつ           </div>	○B、Eが着席することが難しいときには、T2またはT3が教室内で一緒にあいさつをするように促す。
		・学習に見通しをもつことができるように、本時の学習予定カードをホワイトボードにはる。
5分	3 呼名に応じて返事をする。 (学習形態①)	○ひらがなを読むことが難しい児童にも学習内容が分かるよう、T1が学習予定カードを読み上げる。
		・次がどの学習であるかが分かるように、それぞれの内容が終わったら、学習予定カードははずしていくようにする。
		・姿勢を意識することができるように、姿勢を正している児童から呼名するようにする。
		・大きな声で返事ができるように注意を喚起し、できたときには称賛する。
		○Aが呼名の途中で返事をしてしまう時は、よく聞くようにT2が隣りで言葉かけをする。名前を最後まで聞いてから返事をするのできた時は大いに称賛する。
		○B、Eが着席することが難しいときは、T2またはT3が教室内で一緒に返事をするように促す。
25分	4 さるかにごっこをする。 (学習形態①)	・自分がどの役であったかが分かるように、配役カードをホワイトボードにはる。
	(1) 劇の名前と配役を確認し、配役カードを身につける。	・配役カードを身につけることで、自分や友だちがどの役であるかが分かるようにする。
	(2) さるかにごっこをする。 ①カードをひく。	・児童を役名で呼ぶことで、さるかにごっこへの意欲を高めることができるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             A              B              C           </div>	○T1は児童にかごを渡し、かごにカードを入れて柿をとりに行くように言葉かけをする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             D           </div>	○サルと言葉のやりとりをする際、Aが周りを気にしてサルの顔を見て話をするのが難しい場合は、サルを見るように言葉かけをしたり、サルを指差したりして、相手の顔を見て話をするように支援する。
		○これから行う活動を個別に話し、T1と一緒にカードを

<p>5分</p>	<p>③カードにかかれただけの柿をとる。</p> <p>④机に戻り、T2と一緒に柿の数を確認する。</p> <p>※様子を見て、時間がある場合には①～④の活動を2回行う。</p> <p>⑤シールをはる。</p> <p><b>E</b></p> <p>①柿をとりに来た児童と言葉のやりとりをする。「おいで」や「いいよ」、「バイバイ」</p> <p>②柿を数える。</p> <p>(3) 配役カードを片付け、着席する。</p>	<p>見て、何をいくつとってくるのかを確認してから、サルに伝える言葉を練習するようにする。また、サルの前に行って、サルに伝える言葉を忘れてしまったとき、T1と一緒にカードを見て何を伝えたいかを確認するようにする。</p> <p>○質問とは違う答えが返ってきた場合は、質問をより短くし、何を聞かれているのかが分かるように支援する。</p> <p>○柿の数を一人で数えることができるように、カゴに仕切りをつける。</p> <p>○指差しと数唱が合わない場合は、教師が手を持って、一緒に数を数えるようにする。</p> <p>○カードで指示された数よりも多い数の柿をとってしまうときは、カードを見て、いくつとるのかを一緒に確認するようにする。</p> <p>○とってきた柿の数を確認する際、補助箱を用いて、T2と一緒に数えるようにする。</p> <p>○柿をとりに行くのを待っている時間、またはとりに行った後に、一人で学習に取り組むことができるように、シールをはる活動を行うようにする。</p> <p>○待っている間、離席してしまう場合は、活動に興味をもつことができるように言葉かけをする。着席が難しい場合は、自分の番になったら戻るように約束をする。</p> <p>&lt;評&gt;サルとの言葉のやりとりができたか。</p> <p>&lt;評&gt;3まで（Cは5まで）の数を数えることができたか。</p> <p>○Eが意欲的に柿を数えようとする際は、先にEが柿を数えるようにする。</p> <p>○Eが集団に参加することが難しい場合は、柿の木をEの近くに移動し、他の児童がEの方へ柿をとりに行くようにする。</p> <p>○Eが教室内で活動に取り組むことが難しい場合は、他の児童の中でサルをやりたい児童がいるかどうかをたずね、役を交代するようにする。</p> <p>○Eが柿を数える活動に興味をもつことができるように、T3は楽しい雰囲気を作るようにする。</p> <p>&lt;評&gt;集団活動に参加することができたか。</p> <p>&lt;評&gt;興味・関心をもって教師と一緒に数を数えることができたか。</p> <p>・配役カードを入れるかごを用意することで、一人で片付けることができるようにする。</p>
-----------	---	--

	<p>5 本時の学習を振り返り、あいさつをする。(学習形態①)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Eが配役カードを身につけたままでいたい場合は、終わりのあいさつをしてから戻すように約束をする。</li> <li>・授業を振り返り、よくできた点を伝えることで次時への意欲を高めるようにする。</li> <li>・姿勢を意識することができるように、言葉かけをする。</li> <li>○Cがビニールを手を持っているときはT2がビニールをしまうように言葉かけをする。</li> <li>○B、Eが着席することが難しいときには、T2またはT3が教室内で一緒にあいさつをするように促す。</li> </ul>
--	-------------------------------------	--

(4) 学習形態

学習形態①



学習形態②

